

〔～吾が故郷は上桜田地区の
寺社シリーズ No 4～
「山の神社」〕

回
覧
⑤

今回は「山の神社」についてです。

場所は、耕源寺の南西側、図－1の「ここ」と示した所です。

「山の神」をお祀りしている社堂で、本町内会の神龍山耕源寺（武田淳光住職）さんが管理しています。本社堂の全体の姿は図－2のとおりです。



図－1

内部については、順次紹介しますが、図－3のとおりで、簡素な作りとなっており、絵馬とか特別なものはなく、殺風景さを感じさせる、と言ってもよいかと思います。

1. 「山の神」由来

(1) 境内にある「山神」石碑



図－2

階段を上がると左側に、図－4のとおり「文政六年十月二日建立」（1823年）の「山神」碑があります。石の下部には寄進者の氏名らしき刻字はあるが、風化著しく判読出来かねています。

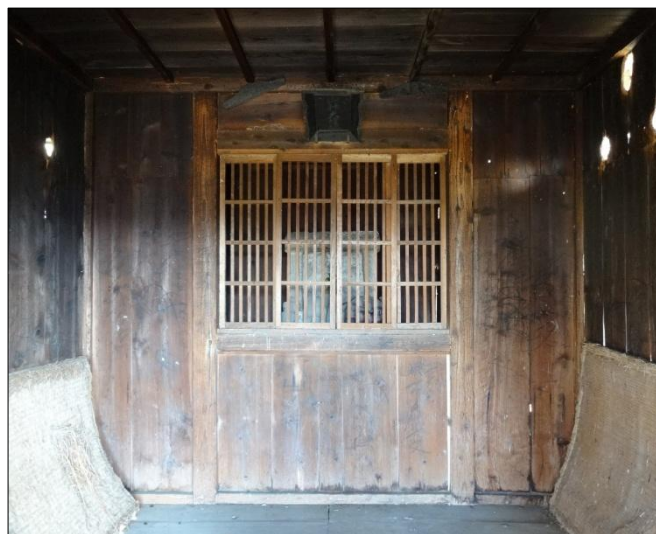
(2) 「大山住尊」の扁額

この社堂の入り口（屋外）頭上に図－5のとおり「篇額」が掲示（取付け）されています。ウィキペディア（フリー百科事典）には――日本神話に登場する神、「大いなる山の神」という意味、日本書紀は『大山祇神』、古事記では『大山津見神』と表記する――とあります。つまり、「住」は「祇」の当て字ではないのか？と思っていますが。山に住む、山をつかさどる神霊、いわゆるこの「山の神」の神名は、別名が沢山あるようです。

(3) 「山神大権現」の篇額

内部に入ると突き当たり奥の頭上に図－6のとおり「篇額」が掲示（取付け）されています。額そのものと周辺が煤のためかと思うが、黒ずんでいます。この写真はフラッシュを投じたが、生では黒光りし光沢を放って見事です。そのような汚れ状態から察するに、この中で護摩焚きの儀式を行ったものと思われます。さて、この扁額にあるとおりの「権現」について少し触れておきます。

「権現」はご承知のとおり、仏教が興隆した時代に発生した神仏習合思想の中で生まれた本地垂迹説の一つで、日本の八百万の神々は、実は



図－3

と思われ、これは神仏習合時代を象徴する名残としても、この辺では貴重なものである、と思っています。



図－4



図－5



図－6

2. 「山の神」の神格・靈威

次に移る前に、少し「山神信仰」について触れておきます。専門的な書物は数多くあるが、「先祖の話（柳田國男著／石文社）」と「山の神と日本人（佐々木高明著／洋泉社）」などから力を借りて、ごく簡単に記述してみます。

――山の神信仰は、祖霊信仰などと習合し地域的な差異が大きいとも言われるが、全国的にほぼ共通して基層に流れるものの一つに、次のような事が伝承されている。春になると山の神が田の神となって里に降りて来る、農作業と農作物・米の生育を見守り、そして、秋の収穫（五穀豊穰）を見届けると、また山の神となって戻って行くと信じ、大いなる生産の神として崇め祀って来た。山の神は甚だ醜い面相の女性神だ、と思われている処が多いという。依って、女性だから一物（男根）を供えると喜ぶ、という事から、丸太きづくりい木造、あるいは石造の男根を奉っている「山の神」神社が多い、との事。――

3. 「山の神」を象徴するもの

本社堂に戻って、図－3の正面の格子戸を開けてみると、内部には図－7のものが祀られています。建物に見立てた石造物の中には寄り添う夫婦と思われる像の彫り物があります。また、まさかと思ったのが、図－7下の写真の男根擬き？の石と、それを受けるように合体した女陰擬き？の石もあります。初めて中に入って参拝した時は奥まっついて見えなかったが、奥の方を凝視している中で見付けて手前に引っ張り出したものです。まさに「山の神」を祀るに相応しい証拠なのか？。

4. 「耕源寺」と「山の神」との関係

当滝山地区の宗教史にちょっと触れます。「瀧山の歴史」（同編集委員会が編纂し、平成十六（2004）年十月一日付で発刊）を概観すれば、当地区の仏教は、行基菩薩が開創・開山（奈良時代初期）、慈覚大師円仁（延暦寺第三代天台座主）が中興（平安時代初期）した、とあり、滝山地区には、現在、耕源寺・石行寺・平泉寺・耕瀧寺・萬松寺があり、いずれも草創期は天台宗であったという。ただし今は、石行寺・平泉寺は天台宗、他は曹洞宗です。天台宗は、「山の神とは非常に深い関係―――同宗の総本山延暦寺は比叡山にあり、比叡山の守護神は日吉大社の主祭神「おおやまくいのかみ大山咋神⇨山の神」―――にあります。

さて、この耕源寺の檀家控室に、図－8写真のように神棚が祭られています。お寺の関係者に直接聞いた処、「山の神」とおっしゃられました。まさに護法善神（寺院の守護神）だろうと思われま



図－7

これらの事より、今は曹洞宗の耕源寺は、その歴史的経緯から、「山の神、天台」と密接な関係にあった事が分かって来ました。逆にいうと、今は曹洞宗でも、「天台宗と深い関りのある山の神」を祀る事は不思議ではなく、当然の事とも言えます。これも今に生きている神仏習合・仏仏習合の一つの実例例であると思っています。

【 編集後記 】

- ・耕源寺の武田淳光住職さんからご協力を賜り、まことにありがとうございました。
- ・もとより浅才非学の身を以って解説出来る身分ではなく、読みかじり、聞き取りで記述したものであり、誤りに気付いた方は、その見識を以ってご自由に訂正してください。



図－8

・昨今は余り存在さえも知られていない小さな社堂ではあるが、人間は固より動植物の生命の誕生、生育、進化は陰陽交合・凹凸交配の結果であって、その神秘的・大切な行為を「山神大権現」に仮託した信仰の歴史がその儘、素朴な形でここに出現している事をうれしく思います。

以上

（上桜田町内会 総務担当 大沼 香）